

中国人日本語学習者の前置き表現に関する一考察

— 日本人大学生と中国人留学生を比較して —

児玉 正子

倉敷芸術科学大学産業科学技術学部

(2015年10月1日 受理)

はじめに

日本語の日常会話で私たちは、コミュニケーションを円滑に進めるために、様々な前置き表現を使っている。前置き表現とは、話し手がこれから話す内容を聞き手に知らせるための前触れで、聞き手にとっては話し手がこれから話す内容を類推しようとするものである。例えば、「すみませんが」「悪いんだけど」「ちょっと伺いたいのですが」等である。この前置き表現について、柏崎（1980）は、「相手を話の場によびいれて、次に話の内容を暗示することばをもって、態勢づくりをするという手順が、正しく履行されないことは、ノックせずに部屋に入ろうとするようなものであり、話の相手は唐突な印象をうけたり混乱を感じたりする。」と述べている。つまり、前置き表現は、話し手が話の内容を効果的に伝えるために大きな役割を果たしていると言える。それにもかかわらず、この前置き表現について中国人留学生は学習しているものの、あまり使っていないようである。そこで、中国人留学生の前置き表現の使用実態、彼らの日本語と母語との違い、文化的な習慣の影響等について調査を行った。本稿ではその結果を報告する。

1. 先行研究

1.0. ポライトネス

1.0.1. ブラウンとレビンソン（Brown & Levinson 1987）

人間には自尊心を傷つけられたくない、フェイス（Face）^{註1}を保ちたいという欲求があり、そのフェイスをポジティブ・フェイス（Positive Face）^{註2}とネガティブ・フェイス（Negative Face）^{註3}に分類した。前者は自分の欲求が他者にとって好ましいものであって欲しいという欲求であり、後者は自分の行為を他者から邪魔されたくないという欲求であるとした。ポライトネスとは相手のフェイスを尊重することを表すストラテジー（言語的手段）であるとし、聞き手の永続的な欲求が常に望ましいものであると認められたいという願望に沿うものをポジティブ・ポライトネスと捉えている。反対に、自由な行為や興味を妨げられたり、邪魔されなくなかったりという欲求に向けられる補償行為をネガティブ・ポライトネスと捉えた。前者が「親しみを表したり、冗談を言ったりする」などの行動の核であるのに対し、後者は敬遠行為の中核となるものであると述べている。総

じて、ポジティブ・ポライトネス文化は友好的で親愛的な文化であるのに対し、ネガティブ・ポライトネス文化はよそよそしさが感じられる人々の文化であるとし、その一つに日本文化を挙げている。

1.1. 日本人母語話者の前置き表現について

1.1.1. 陳 (2007)

前置き表現は主要な言語内容に先立ち、その内容を導入するものであり、話し手の判断や認識が含まれると定義している。さらに陳は、シナリオ集から収集した前置き表現を次の表のように分析・整理した。

表1 前置き表現の体系的分類

分類	例	
対人配慮型	詫び表明	悪いんだけど、ビールだけとらせて呉れない？
	理解表明	検事さんの御好意は有難いが、私たちのことは私たちが考えます。
	謙遜表明	こんなこと言うのは僭越ですけど、奥さんや子供に霞を食えというんですか。
	釈明表明	別にあなたをひどい人だとは思わないけど、彼女はそんな冷酷な人じゃない。
伝達性配慮型	話題提示	これからのことなんだけどな、三助も来年から学校だし、貯金もあまり残ってないし、ここで諦めるわけにはいかないだろう、それで考えたんだが、渡し場をやるうと思うんだ。
	様態提示	一口で申しますと、うちには安西という勤続二十年の運転手がおりましてな…

1.2. 日本語母語話者と中国人日本語学習者の前置き表現の比較

1.2.1. 陳 (2011)

前置き表現を、主文となる発話の直前に現れ、話し手の配慮が含まれ、主文となる発話を導入するものであると定義している。そして、前置き表現となる発話を発する時点では、主文となる発話の命題事象は聞き手がまだ認識しておらず、聞き手にとって新情報であるとしている。それを基に、シナリオなどから収集した使用例から、日中両言語の前置き表現の対照を分析している。陳は「行動要求」に用いられる日本語と中国語の前置き表現の対応関係を次のように対照させた。

表2 「行動要求」に用いられる場合の日中前置き表現の対応関係

後続情報	日本語の表現形式	対応する中国語の表現形式
話し手が利益を得る行動の実行を要求する	「悪いけど」/「すみませんが」/「申し訳ありませんが」	“对不起” / “不好意思”
話し手が職務を遂行するために行動の実行を要求する	「すみませんが」/「申し訳ありませんが」/「恐縮ですが」/「恐れ入りますが」	なし
話し手が利益を守るために聞き手の行動に対する修正や禁止の実行を要求する	「悪いけど」/「すみませんが」/「申し訳ありませんが」	“对不起” / “抱歉”

次に、陳は「行動実行」に用いられる日本語と中国語の前置き表現の対応関係を次のように対照させた。

表3 「行動実行」に用いられる場合の日中前置き表現の対応関係

後続情報		日本語の表現形式	対応する中国語の表現形式
聞き手の要求に逆らう行動を実行する		「悪いけど」/「すみませんが」 /「申し訳ありませんが」	“对不起” / “不好意思” / “抱歉”
聞き手に不利益をもたらす行動を実行する	話し手の自らの行動による不利益の場合	「悪いけど」/「すみませんが」 /「申し訳ありませんが」	“对不起” / “不好意思”
	話し手の職務の遂行による不利益の場合	「恐縮ですが」/「恐れ入りますが」	なし
不利益をもたらすとは考えにくい行動を実行する	話し手の立場を弁えない行動の実行	「恐縮ですが」	“怒我冒味”
	聞き手に礼儀に欠ける行動	「失礼ですが」	“抱歉”

2. パイロット調査及び前置き表現の機能分類

2.1. 本稿における前置き表現の定義

本研究においては「前置き表現」を、「話し手がこれから話す内容を理解してもらいたいという願望を持って使われる表現である」と定義する。

2.2. 第1回パイロット調査

本調査を行う前に、第1回パイロット調査を行った。これは中国人留学生5名^{註4)}を対象に行った対面式のインタビュー調査である。

2.3. 第1回パイロット調査に基づく前置き表現の機能分類

第1回パイロット調査の結果、中国人留学生の「前置き」は親疎の関係が「前置き」の使用に多く影響し、詫び表現に現れやすいことが明らかになった。そこで、詫び表現の前置き表現の機能を以下のように分類した。これは陳（2007）の表1、陳（2011）の表2、3を参考に対応させたものである。

陳（2011）表2の「『行動要求』に用いられる場合の日中前置き表現の対応関係」に関しては以下の通りに解釈した。

- ・後続情報が「話し手が利益を得る行動の実行を要求する」を「依頼」とする。
- ・後続情報が「話し手が利益を守るために聞き手の行動に対する修正や禁止の実行を要求する」を「訂正」とする。

次に陳（2011）表3の「『行動実行』に用いられる場合の日中前置き表現の対応関係」は次のように解釈した。

- ・ 後続情報が「聞き手の要求に逆らう行動を実行する」を「断り」とする。
- ・ 後続情報が「聞き手に不利益をもたらす行動を実行する」の中の「話し手の自らの行動による不利益の場合」を「釈明」とする。
- ・ 後続情報が「不利益をもたらすとは考えにくい行動を実行する」の中の、「話し手の立場を弁えない行動の実行」を「制止」とする。

次の表現はアンケートの対象が大学生であるため、扱わないことにする。

- ・ 表2の後続情報が「話し手が職務を遂行するために行動の実行を要求する」
- ・ 表3の後続情報が「聞き手に不利益をもたらす行動を実行する」の中の「話し手の職務の遂行による不利益の場合」
- ・ 表3の後続情報が「不利益をもたらすとは考えにくい行動を実行する」の中の「聞き手に礼儀に欠ける行動」

そして、本稿における発話機能の分類の大枠は、陳（2007）表1にある対人配慮型の体系的分類の詫び表明、理解表明、謙遜表明、釈明提示、そして、伝達性配慮型の体系的分類の話題提示、様態提示を援用する。その中の詫び表明に関して、陳（2011）表2、3の後続情報を依頼、訂正、断り、釈明、制止と解釈したものである。それらの順番は、表4の①～⑩の通りである。

表4 発話の機能分類

分類		陳（2011）表3、4から一部抜粋	
詫び表明	① 依頼	←	話し手が利益を得る行動の実行を要求する（表2）
	② 制止	←	不利益をもたらすとは考えにくい行動を実行する（表3） 話し手の立場を弁えない行動の実行
	③ 断り	←	聞き手の要求に逆らう行動を実行する（表3）
	④ 訂正	←	話し手が利益を守るために聞き手の行動に対する修正や禁止の実行を要求する（表2）
	⑤ 釈明	←	聞き手に不利益をもたらす行動を実行する（表3） 話し手の自らの行動による不利益の場合
⑥ 理解表明			
⑦ 謙遜表明			
⑧ 釈明表明			
⑨ 話題提示			
⑩ 様態提示			

3. 第2回パイロット調査及び前置き表現の機能分類

3.1. 第2回パイロット調査：アンケート調査

第1回パイロット調査の結果を基に、第2回のパイロット調査を行った。これは、陳(2011)を参考に①依頼、②制止、③断り、④訂正、⑤釈明、⑥理解表明、⑦謙遜表明、⑧釈明表明、⑨話題提示、⑩様態提示の発話を設定したものである(表4)。調査は日本語母語話者10人(20代から40代の男女)、中国人留学生10人^{註5)}に対して2011年に日本において行ったものである。その結果、本研究の前置きの分類のうち、⑥理解表明、⑦謙遜表明、⑧釈明表明、⑨話題提示、⑩様態提示の前置き表現が出にくいということが明らかになった。

4. 本調査

4.1. 本調査における前置き表現の機能分類

第2回パイロット調査において前置き表現が出にくかった項目を除き、調査の質問内容を①依頼、②制止、③断り、④訂正、⑤釈明に設定し、アンケートを新たに作成した。さらに、質問内容は、難易度に関するものは省き、上下親疎の関係におけるものに絞った。分類は次の表5の通りである。

表5 本稿における発話の機能分類

詫び表明	① 依頼
	② 制止
	③ 断り
	④ 訂正
	⑤ 釈明

①～⑤の意味公式の質問を、上下親疎の関係に対して設定した。上下親疎の関係として取り上げるのは親しい友人、あまり親しくない友人、よく知っている大学の先生、あまり知らない大学の先生である。回答の対象を友人と大学の先生に設定したのは、大学生が日常、接する機会が多いためである。さらに、質問内容は友人、先生ともに同じものを使用した。

4.2. 本調査対象及び方法

本調査の対象は、日本人大学生、中国人留学生とも1年～4年生の18歳～22歳で、それぞれ50人である。中国人留学生は日本に留学中の大学生で中国本土出身の漢民族である。日本語能力はN3～N2レベル程度である。調査は巻末のアンケート用紙に記入の方法で2012年に日本で行った。中国人留学生に対しては、日本語と中国語によるアンケートを実施し、日本語と中国語の両言語を用いた場合の表現の違いに関して調べた。

4.3. 本調査における結果の分類

和田（2008）を参考に回答部分の前置きを次のように分析する。それぞれの分類は「～先行型」とし、直接型、状況・理由説明先行型、状況確認先行型、将来の約束先行型、詫び先行型、呼称先行型、フィラー^{註6)}先行型と呼ぶこととした。調査の結果、回答が「詫び」だけではなく、「詫び」のあとに「結論」を述べるもの、「状況・理由説明」を述べるものなどがあった。そのため、本研究においてはそれらを「詫び+直接型」、「詫び+状況・理由説明先行型」等と呼ぶことにする。さらに、フィラーの後に「結論」、「状況・理由説明」を述べるものがあった。それらを「フィラー+直接型」等と呼ぶこととする。

4.4. 「直接型」

前置きを使用せず結論を直ぐ述べ、直接行為を要求する発話行為を、劉・小野（1996）は「結論先行型」と呼んでいる。本調査の分析においては「直接型」と呼ぶ。例えば、「1万円貸してもらえない?」等である。

4.5. 「状況・理由説明先行型」

発話の始めに話し手の状況・理由説明が出てくるものを和田（2008）は「状況・理由説明先行型」と呼んでいる。本調査の分析においても「状況・理由説明先行型」と呼ぶ。例えば、「教科書をどうしても買わないといけないので、1万円貸していただけませんか?」等である。

4.6. 「状況確認先行型」

発話の始めに聞き手の状況を確認するものを「状況確認先行型」と呼ぶ。例えば、「1万円ありますか。」等である。

4.7. 「将来の約束先行型」

発話の始めに将来の約束を述べるものを「将来の約束先行型」と呼ぶ。例えば、「明日必ず返すので、お金を貸していただけますか。」等である。

4.8. 「詫び先行型」

「相手の意向に添えない旨の表出」を劉（1996）は「詫び」と呼んでいる。本調査の分析は発話の始めに「詫び」が出てくるものを「詫び先行型」と呼ぶ。例えば、「本当にすみません。1万円貸してくれますか。」等である。

4.9. 「呼称先行型」

発話の始めに「呼称」が出てくるものを「呼称先行型」と呼ぶ。例えば、「先生、1万円持っ

ていませんか？」等である。

4. 10. 「フィラー先行型」

発話の始めにフィラーが出てくるものを「フィラー先行型」と呼ぶ。例えば、「あの、すみません。ちょっとお金貸してくれませんか。」等である。

5. 考察

本調査の結果を分析した結果、前置きに関する日本人大学生と中国人留学生の発話において、考察すべき点として次の5点が浮かび上がった。

第1に「依頼」に関して、日本人大学生は上下親疎のどの関係においても詫び先行型が多いが、中国人留学生は親しい友人に対しては直接型が、親しくない友人に対しては詫び先行型が多い。また、先生に対しては呼称先行型が多いという点である。依頼行為は相手のフェイスを犯す行為の典型的な例である（Brown & Levinson (1987)）ため、他者から受け入れられたい、好かれたいという欲求であるポジティブ・ボライトネスを犯す側面がある。それを和らげようとして、日本人大学生は詫び先行型を、中国人留学生は親しい友人に対して直接型を多く使い、ポジティブ・フェイスを満たす言語行動を取っていたのではないと思われる。

第2に「制止」に関しては、日本人大学生も中国人留学生も親しい友人には直接型が多く、親しくない友人に対しては詫び先行型が多いという点である。そして、先生に対して、日本人大学生は詫び先行型が多く、中国人留学生は呼称先行型が多い。制止行為も補償行為を行う必要があるが、質問の内容は相手の態度を非難するものであるため、直接型を用いポジティブ・フェイスを満たす言語行動を取っていたと思われる。また、親しくない友人に対して詫び先行型が多かったのは、ネガティブ・フェイスを補償する言語行動を取ったためであると推測される。

第3に「断り」に関しては、日本人大学生は上下親疎の関係に対して詫び先行型が多い。一方、中国人留学生は、友人に対して日本語アンケートでは詫び先行型が多いが、中国語アンケートでは状況・理由説明先行型が多い。さらに、先生に対しては呼称先行型が多く、中国語アンケートで特に多く見られる。断りの発話行為は、相手のフェイスを脅かし、対人関係において不快な状況をもたらすものであるため（劉ら (1996)）、それを修復しようとして、日本人大学生は詫び先行型を取り、ネガティブ・フェイスを補償する言語行動を取ったものと考えられる。一方、中国人留学生に状況・理由説明先行型と呼称先行型が多かった。この理由については後に述べる。

第4に「訂正」に関しては、日本人大学生、中国人留学生ともに、親しい友人に対しては直接型が多く、中国人留学生は中国語アンケートで特に多く見られる。訂正行為は相手のフェイスを脅かすため、ネガティブ・フェイスを補償する言語行為を取る必要がある。

しかし、質問の内容は相手の行為を非難するものであるため、直接型を使用し、ポジティブ・フェイスを満たす言語行動を取ったと考えられる。そして、中国人留学生はよく知っている先生に対して呼称先行型が多い。

第5に「釈明」に関しては、日本人大学生も中国人留学生も親しい友人に対しては詫び型が多いが、中国人留学生の中国語アンケートでは状況・理由説明先行型が多い。そして、日本人大学生は先生に対して詫び先行型が多く、中国人留学生は呼称先行型が多い。これは、釈明行為は相手のフェイスを脅かすため、ネガティブ・フェイスを補償する言語行動を取る必要があり、詫び先行型を用いたものと思われる。特に日本人は理由を述べる前にまず詫びて、人間関係を修復しようとする。例えば、時間に遅れた場合でもまず詫びるといったように、日本人は一般的に簡単に謝る習慣があることが挙げられる。(相原 2007)

以上をまとめると、日本人大学生は「依頼」「断り」「釈明」の場面において詫び先行型が多く見られた。これは、発話の内容が前置き表現に影響していると言える。そして、「制止」の場面においては、親しい友人に対しては直接型と状況・理由説明先行型が多く、親しくない友人と知っている先生と知らない先生に詫び先行型が多い。これは、上下親疎の関係が影響していると思われる。次に、「訂正」の場面においては、どの関係の人に対しても直接型が多いことから、発話の内容が前置き表現に影響していると言える。知っている先生に対して呼称先行型が多かったのは、親しさの表れとして使われたのではないかと推測される。

一方、中国人留学生は「依頼」「制止」「訂正」の場面において、親しい友人に対しては直接型が多く、親しくない友人に対しては詫び先行型が多い。このことから、友人に対しては親疎の関係が発話に影響していると言える。先生に対しては呼称先行型が多い。「断り」の場面においては、親しい友人と親しくない友人に対して、詫び先行型と状況・理由説明先行型が多く、知っている先生と知らない先生に対しては詫び先行型と呼称先行型が多く、特に中国語アンケートでは呼称先行型が多い。親しくない友人に対して、状況・理由説明先行型が多いのは中国人留学生の特徴である。「釈明」の場面においては、親しい友人には詫び先行型が多く、親しくない友人に対しては日本語アンケートでは詫び先行型が多く、中国語アンケートでは状況・理由説明先行型が多い。このことから、中国人留学生は親しくない友人に対して、状況・理由説明先行型が多い特徴があることがわかる。知っている先生と知らない先生に対しては詫び先行型と呼称先行型が多い。

また、中国人留学生の日本語の発話は、母語の中国語に影響されている。これは、中国人留学生に対する日本語アンケートと中国語アンケートを比較した結果、中国語アンケートにおいて前置き表明の特徴がよく表れていたことで証明された。

さらに、中国人留学生の発話は日本語の学習によって習得されている。これは、中国語アンケートでは、日本人大学生と大きい違いが見られたが、日本語アンケートではその差が小さくなっていることからわかる。

特に今回の調査で、中国人留学生に多く見られたのが呼称先行型、状況・理由説明先行型であったので、それらの理由に関する先行研究についてまとめる。

まず、呼称についてである。中国人留学生は知っている先生にその使用が多い。中国人に呼称の使用が多い理由について付(2007)は、次のように述べている。日本語では人称代名詞を使用せずに、尊敬語・謙譲語を使うことにより立場の違いを表現することができるが、中国語の敬語表現は人称代名詞と共に使用することにより、より一層敬意が深まることが考えられる。そのため、中国語の敬語表現は人称代名詞と共に使用することが多いので、両言語における人称代名詞の使用頻度に違いが出て来るのではないかと分析している。このように、中国語の文法的特徴が呼称の使用の多い原因になっているのではないかと考えられる。

次に、曲(2009)は、中国語の文脈では呼称が挨拶の一部を構成していることを挙げている。その例として、子どもが礼儀作法の一つとして呼称で呼びかけることを厳しく教育されていることを報告している。また、彭(2012)は、現代中国社会においては礼儀作法の一つとして、子供に対して呼称で人を呼んで挨拶するという教育がされているため、呼称で年上の人に呼びかけ、尊敬の念を表すと述べている。著者は実際に中国人留学生に子供の頃呼称で人を呼ぶように教育されたか尋ねたところ、その経験があると答えた学生がいた。さらに、そのように教育された意識がなくても、中国語では呼称で人を呼ぶことが挨拶として習慣づいているということであった。これについて彭(2012)は、学校や会社における朝の登校・出勤風景で人々がお互いに呼称で呼びあう風景があると報告している。このように、現代中国社会では日常生活で呼称が挨拶として頻繁に使用されていることがわかる。

さらに、呼称の使い方として、輿水(1977)は“老师”「先生」を呼びかけとしてではなく会話の中で“老师也在吗?”「先生もいらっしゃいますか」と言えば丁寧に感じられ、さらに敬意が含まれることを明らかにしている。それだけでなく、会話の途中で使われる場合は、相手との人間関係が繰り返し確認され、一種の敬語としての効果が生まれると分析している。このように呼称は敬語としての役割を果たしていることがわかる。

次に謝罪についてである。過ちを犯した時、日本人はすぐ謝り、理由は少しだけしか述べないことが多いのに対し、中国人は詳しく説明することがある。筆者の大学においても中国人留学生が提出物の遅延や、遅刻の理由を長く述べることがある。謝罪に対して相原(2007)は、中国人は理由を言えば相手は納得してくれるものだと思っていると述べている。また、相原(2007)は、謝罪に関しては中国には“负荆请罪”「いばらでできている鞭を背負って謝罪に訪れ、すすんで誤りを認め、処罰を乞う」という成語があるように、簡単に“对不起”「すみません」と言わない傾向があると報告しているように、謝罪することに対する意識が日本人と中国人の間には存在するようである。

註

- (1) フェイス (Face、面子と訳されることもある) とは、恥をかかされたり自尊心を傷つけられたりしたくないという欲求のことである。相互関係の中ではフェイスを保つことは最大の利益につながる。
- (2) ポジティブ・フェイス (Positive Face、積極的面子と訳されることもある) とは承認、理解、是認されたい、好かれたい、賞賛されたいという欲求のことである。
- (3) ネガティブ・フェイス (Negative Face、消極的面子と訳されることもある) とは、縄張り、プライバシーなどを侵害されたくない、邪魔されたくないという欲求のことである。
- (4) 中国人留学生とは1年生の18歳~20歳の男4人・女1人で、大学入学前に1年から1年半の日本語教育を受けている学生のことであり、民族は限定していない。
- (5) 中国人留学生とは18~22歳の大学1年生の男女で、日本語能力N2レベル程度の現在アルバイトをしている学生である。民族は限定していない。
- (6) 「フィラー」について山根 (2002) は、「それ自身命題内容を持たず、かつ他の発話と狭義の応答関係・接続関係・修飾関係にない、発話の一部分を埋める音声現象」と定義している。本調査では山根の定義に従う。

参考文献

- 相原 茂 (2007) 『感謝と謝罪』初めて聞く日中“異文化”の話』講談社
- 曲 志強・林 伸一 (2009a) 「日本語と中国語のあいさつ表現について—大人と子どもの間の談話分析—」
山口大学人文学部国語国文学会発行『山口国文』第32号
- 興水 優 (1977) 「中国語における敬語」『岩波講座日本語4 敬語』岩波書店
- 周 升干 (2008) 「断る場面における「前置き表現」について—中国の日本語学習者と日本語母語話者の比較—」『言語文化研究 言語情報編』第3号 大阪府立大学人間社会学部言語文化学科
- 滝浦真人 (2008) 『ポライトネス入門』研究社
- 陳 臻渝 (2007) 「日本語の前置き表現に関する一考察：会話文と投書の比較を通して」大阪府立大学『人間社会学研究集録』2巻
- 陳 臻渝 (2011) 「前置き表現に関する日中対照研究—後続情報の内容による分析—」大阪府立大学人間社会学部言語文化学科『言語文化研究 (言語文化情報編)』第6号
- ナカミズ・エレン (1992) 「日本語学習者における依頼表現—ストラテジーの使い分けを中心として—」『日本語学篇』(通号26)
- 付 敏 (2007) 「日中両言語における人称代名詞の対照研究」奈良女子大学21世紀COEプログラム 古代日本形成の特質解明の研究拠点
- 藤森弘子 (1994) 「日本語学習者にみられるプログラマティック・トランスファー—「断り」行為の場合—」『日本語教育論集』第1
- ブラウン・ペネロピ、レヴィンソン・C・スティーヴン (2011) 『ポライトネス 言語使用における、ある普遍現象』田中典子 監訳研究社
- 彭 国躍 (2012) 「中国語敬語表現の歴史と現状 マクロ的通時論の考察『配慮』はどのように示されるか」
ひつじ書房
- 暴 曉 (2010) 「詫び表現の中日対照研究」桜美林大学国際学研究所言語教育専攻修士論文
- 山岡正紀 (2010) 『コミュニケーションと配慮表現』明治書院
- 山下みゆき・サウクエン・ファン (2001) 「意見提示の opening marker としての前置き表現—日本語母語話者と中国人学習者の比較—」『日本語教育学会秋期大会予稿集』日本語教育学会
- 山根智恵 (2002) 『日本語の談話におけるフィラー』くろしお出版
- 劉 玉琴・小野由美子 (1996) 「中日母語話者の『断り』発話行為に見られる相違について」『中国四国教育学会 教育研究紀要』第42巻第2部
- 和田由理恵、堀江 薫、北原良夫、吉本 啓 (2008) 「日本語学習者の依頼におけるポライトネスストラテ

ジー—日本語学習者の母語と日本語の比較—『東北大学高等教育開発推進センター紀要』第3号

アンケート調査

あてはまる方に○をつけてください。

- () 中国人 (滞在年数 _____ 年、日本語能力試験 _____ 取得)、中国の出身地 ()
() 日本人
() 男・() 女
() 10代・() 20代・() 30代・() 40代

質問：次のような場合、あなたはどのように言いますか。

(1～5の質問についてそれぞれの人に対して何と答えるかを回答する。)

- ・親しい友人に対して
 - ・親しくない友人に対して
 - ・よく知っている先生に対して
 - ・あまり知らない先生に対して
1. あなたは家に財布を忘れて大学にきました。しかし、今日はどうしても教科書を買わなければならないので、友人(先生)に1万円貸してもらいたいと思います。友人(先生)に何と言いますか。
 2. ゼミの合宿で隣の部屋の友人(先生)が、夜遅くまで大きい音でテレビをつけています。明日は朝早く起きなければならないのに、なかなか寝られません。隣の部屋の友人(先生)に何と言いますか。
 3. あなたは友人(先生)に食事に誘われました。しかし、あいにく大切な約束があるので行けません。友人(先生)に何と言いますか。
 4. 友人(先生)が海外に行くというので、あなたは海外の雑誌を買って来て欲しいと頼みました。ところが、友人(先生)が買って来たのはあなたが頼んだ雑誌ではありませんでした。友人(先生)に何と言いますか。
 5. あなたは友人(先生)と待ち合わせをしましたが、バスが渋滞に巻き込まれてしまい、待ち合わせの時間よりだいぶ遅くなってしまいました。友人(先生)は普段から時間に厳しい人です。友人(先生)に何と言いますか。

A study of how Chinese university students learning
Japanese use prefaced expressions.
— Comparing the use of expressions between Japanese
university students and Chinese university students —

Masako KODAMA

College of Science and Industrial Technology

Kurashiki University of Science and the Arts,

2640 Nishinoura, Turajima-cho, Kurashiki-shi, Okayama 712-8505, Japan

(Received October 1, 2015)

This paper focuses on some characteristics and differences of how Chinese university students use prefaced expressions. In daily conversation, native speakers of Japanese use many kinds of prefaced expressions to communicate ideas with one another. Brown and Levinson(1987) proposed that usage of prefaced expressions reflects “politeness” by the speaker and serves as a marker in human relationships in areas such as social standing and distance. Such usage, however, seems uncommon for Chinese university students. To test this observation, questionnaires were collected from 50 Japanese university students and 50 Chinese university students.

Another characteristic observed was that many Chinese university students tend to start their conversation with the word “Sensei” when addressing their teachers and to give full information when they need to excuse. This obviously reflects their cultural customs and habits.